

# 神奈川県立 精神医療センターだより

芹香病院／せりがや病院



## せりがや病院院長就任に当たって



神奈川県立精神医療センター

せりがや病院 院長 奥平 謙一

せりがや病院は、昭和38年に麻薬中毒の医療施設としてせりがや園の名称で発足しました。しかし、ヘロイン中毒者の激減のため、設立当初からアルコール依存症と覚せい剤やシンナーなどの薬物依存を治療対象としました。平成2年4月に芹香病院と統合改組し、精神医療センターせりがや病院と名称を変えました。平成2年9月に現在の建物を建築し、80床となりました。

私は、昭和60年から2年間、初めてせりがや園に勤務しました。その当時は古い建物で、鉄の扉と錆びた鉄格子が目立ち、病院というより昔の収容所のような建物でした。しかし、患者さんと医療スタッフの表情は明るく、治療に前向きに取り組んでいました。2回目は昭和63年から10年間勤務し、その間に新病棟に建て替えられました。依存症の患者さんの治療に真剣に取り組むなかで、いろいろな疑問が湧き病院スタッフと協力して臨床研究を続けました。そして、アルコール依存症の患者さんは決して正常飲酒には戻れないこと、一時的に節酒ができてその状態は長続きしないことを予後調査を通じて証明し、論文発表しました。また、覚せい剤やシンナー乱用患者の中に幻覚の出やすい人と出にくい人がいて、本人の素因（体質）が関係していることも論文発表しました。さらに、いちど依存症になってしまうとなかなか回復しにくいことがわかり、教育啓蒙による予防が最もコストパフォーマンスが良いと考え、精神保健福祉センターでは薬物乱用防止の教育啓蒙及び相談業務に携わりました。

そして今回、平成18年4月に3回目のせりがや病院に院長として勤務することになりました。8年ぶりに戻りましたが、文字どおり浦島太郎の心境です。病院内の診療の進め方、書類事務の進め方がすっかり変わっており、ひとつひとつ他の医師や看護師、ケースワーカーなどに聞きながら仕事をしています。また、書類と会議が非常に多くなっています。最近の精神科医療現場の変化の激しさをあらためて実感しました。世の中の変化に対応し、医療も病院も変わっていかなければなりません。そして、患者さんのために、ご家族のために更にお役に立てるように、より高度で良質な医療をめざして病院職員全員で真剣に取り組んでいきたいと考えています。また県立病院として、県民のために何ができるかを常に考え病院の価値を高める努力をしていきたいと思っております。

### 基本理念

患者さんやご家族に信頼される心あたたかい医療を提供し、  
神奈川県立精神医療の発展に努めます。

〒233-0006 横浜市港南区芹が谷2-5-1

神奈川県立精神医療センター

TEL 045-822-0241(代) FAX 045-825-3852

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/byouin/seisin/index.htm>



# 新副院長の抱負

神奈川県立精神医療センター

芹香病院 副院長 岩間 久行



時の経つのは早いもので、赴任して既に1か月を経ました。まだ、ほんの入り口に立っている状態のように感じています。これから皆さんのお力をお借りしながら、ともに仕事ができることを喜ばしく思っています。

この10年、医療界は多大な変化を余儀なくされてきました。医療費の削減、入院中心から外来中心への医療、医療の安全や質の向上など、全てを満足させるには極めて困難な課題を突きつけられています。この流れは今後もしばらく続くと思われま。やがて、医療界への株式会社参入という事態が起こるのではないかと危惧しています。現在、日本の医療は全て国営で縛られていますが、その中で医療現場での良心的な医療提供に向けて創意・工夫が重ねられている努力は何よりも価値が高いと思います。資本主義は既に衰退を始めている状況ですが、その流れの中で株式会社参入は医療を荒廃に導くと考えられます。

大切なことを一つ申し上げたい。「患者中心の医療」ということです。これは私ども医療関係者の基本ではないでしょうか。よく「患者中心の医療」を「患者の立場に立った医療」と読み違える方がおられますが、この二つは大きく異なります。中心という言葉は、主体が患者さんにあるということを意味します。一方、立場に立った医療は、主体が提供者の側にあることを意味します。「患者中心の医療」を提供するには「生活モデル」という考え方をよく理解しなければいけません。その上で、医師、看護師、PSW、CP、OTなど様々な専門職が専門性を活かした評価を行い、患者さんにフィードバックする。それらを患者さんが十分理解することによって、患者さんの治療意欲を高め自らの治療の方向性を選び取るようにしていく、端的に言えばそのような医療提供のあり方と考えます。実際にこれを行っていくには、現在の忙しい業務の中では大変な労苦を強いられます。

芹香病院は医療観察法の通院医療に積極的に取り組んでいます。この中には「患者中心の医療」という考え方が盛り込まれています。大変困難な業務ですが、切磋琢磨することによって多くの良い波及効果が得られるものと思います。このような日々の努力が将来を切り開いていく。私はそうした可能性を持った病院に赴任できたことを嬉しく思っています。数年後に病院の総合整備が始まるとも聞いています。物理的（ハード的）には効率化が大幅にアップするでしょう。それまでにソフトを熟成し、それに見合ったハードを用意する。これが理想的な流れではないでしょうか。

## 新任職員の紹介について

◎本年4月以降、精神医療センターに来られた医療スタッフを紹介します。センターの基本理念を踏まえ、皆さんに信頼される心あたたかい医療を提供するよう努力しますので、よろしく願いいたします。



小澤 医長  
(芹香病院)



藤田 医師  
(芹香病院)



広沢 副看護局長  
(芹香病院)



江口 病棟看護科長  
(芹香病院)



西嶋 外来看護科長  
(せりがや病院)



西岡 病棟看護科長  
(せりがや病院)

芹香病院	
副院長	岩間 久行
医長	小澤 篤嗣
医師	藤田 純一
地域医療相談室長	関波 対子
精神保健福祉士	埜崎 健治
臨床心理士	川合 義信

作業療法士	渡 會 蘭子
副看護局長	広 沢 美和子
病棟看護科長	江 口 美代子
看護師	吉 川 潤
せりがや病院	
院長	奥 平 謙一*
外来看護科長	西 嶋 宣雄

病棟看護科長	西 岡 日登美*
主任看護師	江 藤 和子
主任看護師	幸 村 幸男*
主任看護師	黒 川 由美子*
看護師	尻 枝 正和*
看護師	小 島 るみ子

\*は内部異動者

# ■ 外来患者さん待ち時間調査

平成17年11月7日(月)～11日(金)の間に、外来患者さんのご協力をいただき、349名の方の待ち時間調査を実施いたしました。内容は、①来院時間 ②予約時間 ③診察時間 ④薬できあがり時間の各項目について確認し、所要時間をまとめました。

外来所要時間（来院から薬できあがりまでの時間）は、平均90.0分で、昨年度の72.9分と比較すると、約17分長くなっています。また、最も多くの方がかかった時間は81.0分、標準偏差は36.8であることから、個々人によりばらつきも大きいことがわかりました（表1）。また、所要時間を15分毎にみると、76～90分が89人と最も多く、次いで61～75分が64人、91～105分が39人となっており、61～90分の間には43.8%の方が集中していました。（図1）

さらに来院から診察開始までの実際の待ち時間をみると、平均48.7分で、昨年度の38.8分との比較では、約10分長くなりました。また、診察時間の平均は6.4分で、昨年度の7.2分に比べ0.8分短くなった一方、薬待ち時間の平均は32.4分となり、昨年度の22.6分と比べ9.9分長くなりました。

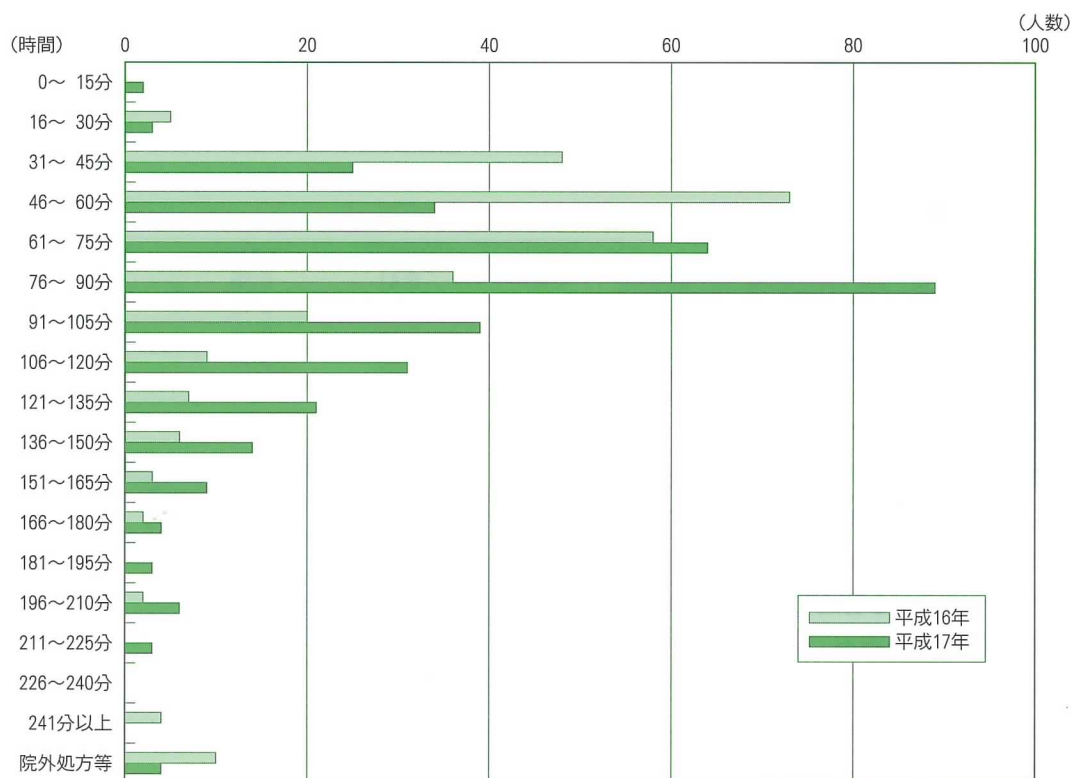
患者さんの意見をお聞きしたところ、「30分なら待てるが40分以上になるとイライラする」、「診察は予約時間から1時間以内にしてほしい」というご意見が多くありました。また、待ち時間に関わる設備・サービスについては、「食堂があるといい」、「待ち時間を利用して患者の悩みや相談事などを聞いて、アドバイスを受けられるような体制があったらいい」などの意見もありました。

当病院では、調査結果を踏まえ、今後とも待ち時間の短縮に努めるとともに、より快適な待合環境の整備を進めてまいりたいと存じます。

**表1**  
外来区分別所要時間（分）

区分	a	b	a + b	c	d	a+b+c+d+移動
外来区分別所要時間	予約時間までの待時間（来院時間から予約時間まで）	診察待ち時間（予約時間から診察開始まで）	実際待ち時間（来院から診察開始まで）	診察時間	薬待ち時間	外来滞在総時間（来院から薬できあがりまで）
平均値	28.7	20.0	48.7	6.4	32.4	90.0
標準偏差	41.3	29.8	34.4	5.0	11.3	36.8
中央値	22.0	16.0	40.0	5.0	32.0	81.0

**図1**  
外来滞在総時間



## ■ 外来時間予約制の導入

せりがや病院

当病院の外来では、平成17年度から初診、再診ともに時間予約制を採っています。当病院の診療体制は、外来から入院まで主治医制を採っており、またこれまでは、再診のみ曜日予約制であったため、結果として予約外の受診が半数を占め、その患者さんに対して主治医がその都度診療を行ってきました。また、時間予約制ではなかったため、来院時間帯が重なったり、診療開始や処方までの待ち時間が長くなったりしたため、患者さんからの苦情も多くなりました。

このため、診療カンファレンスにおいて時間予約制導入の検討を行い、初診は平成17年4月から、再診は9月から時間予約制を採らせていただきました。その結果、平成16年度までは半数以上の方が予約外受診でしたが、平成17年4月には約43%と逆転し、平成18年3月には予約外受診は約8%までに減少しました。(表1)平成17年度の月間患者数は、年間を通じて1,000人前後と安定していることから、時間予約制は患者さんの間に定着してきたものと思われまます。

時間予約制の導入により、外来診療が予約時間内に終了することも可能になり、また外来診療や薬の待ち時間の短縮にもつながりました。これらのことから、外来の混雑が軽減し静かな雰囲気が醸し出されるなど、時間予約制は予想以上の効果を上げており、当病院としては、今後も時間予約制を継続していく予定です。

■表1 再診時間予約状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予 約	583	585	707	663	683	714	743	857	860	786	854	948
予約外	441	396	324	350	350	297	224	172	150	92	97	78

※ 再診時間予約制について、1名の医師が4月から先行実施、9月からは全医師が実施

## ■ 外来待ち時間調査

せりがや病院

平成18年1月16日(月)～20日(金)の間に、外来患者さんのご協力をいただき、224名の方の待ち時間及び満足度調査を実施いたしました。内容は、①外来受付～診察開始の時間 ②診察時間 ③診察終了～会計の時間 ④会計～薬受け取りの時間 ⑤外来受付～帰宅の時間(総時間)の各項目について所要時間をとりまとめるとともに、待ち時間に対する患者さんのご意見をお聞きしました。

まず、受付～診察開始の時間については、最短20分、最長41分、平均27分であり、昨年より32分短縮されました。また、診察時間は、最短8分、最長15分、平均11分であり、昨年と変化はありませんでした。一方、診察終了～会計は、最短4分、最長12分、平均9分と昨年より18分短縮され、更に会計～薬受け取りの時間は、最短7分、最長25分、平均13分であり、昨年より11分短縮されました。

この結果、外来受付から帰宅までの総時間は、最短43分、最長82分、平均64分であり、昨年より30分も短縮されるなど待ち時間の大幅な改善が図られました。

■表1 待ち時間

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	平均
外来受付から診察開始までの待ち時間	0:20	0:41	0:26	0:23	0:26	0:27
診 察 時 間	0:08	0:11	0:15	0:09	0:13	0:11
診察終了から会計までの待ち時間	0:12	0:10	0:04	0:09	0:11	0:09
会計から薬を受け取るまでの時間	0:11	0:09	0:12	0:25	0:07	0:13
外来受付から帰宅までの時間	0:43	1:22	1:04	1:11	0:58	1:04

次に、待ち時間についての患者さんの満足度を調査したところ、受付から診察開始、更には帰宅までの時間については、平成16年度は30.3%の方が「長い」と答えていましたが、平成18年1月の調査では「長い」と答えた方が15.5%であり、長いと感じる時間が減少していました。

■表2 外来満足度調査結果比較

	診療開始まで		会計精算まで		全体(病院出る)	
	16年度	17年度	16年度	17年度	16年度	17年度
短 い	4.3%	5.5%	5.5%	4.2%	5.9%	3.7%
やや短い	5.0%	7.0%	9.2%	8.9%	5.0%	6.4%
普 通	38.3%	54.0%	63.0%	58.3%	41.2%	53.5%
やや長い	19.1%	21.0%	13.4%	20.3%	17.6%	20.9%
長 い	33.3%	12.5%	9.2%	8.3%	30.3%	15.5%

以上の結果は、時間予約制の顕著な効果であると考えられますが、病院として今後とも患者さんの待ち時間の短縮に向けて、様々な努力をしてみたいと存じます。

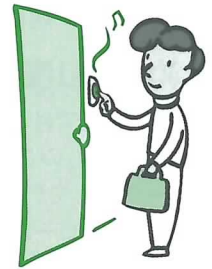
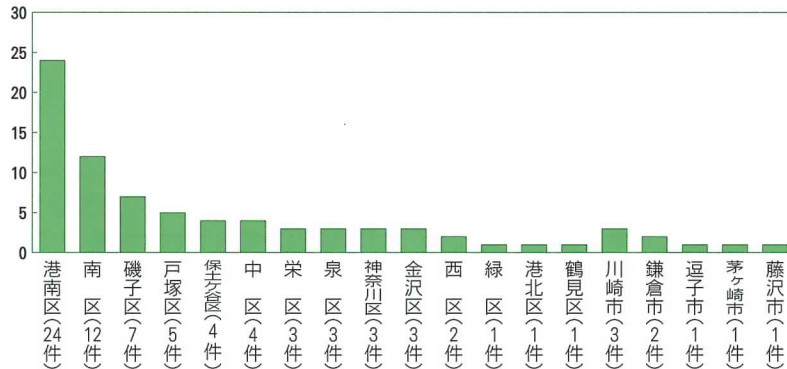
当病院の訪問看護は、本格実施後4年目を迎え、現在の利用者数は81名となりました。病院では、利用者の皆さんや主治医の意見等を基に訪問計画をたて、2ヶ月に1回～週1、2回の利用まで、患者さんの状況に応じて訪問看護を実施しています。また本年4月からは、専任スタッフが増員され、地域医療相談室の専任訪問看護師4名と兼任の外来看護師7名を中心に月110件程の訪問看護を実施しています。

精神科の訪問看護では、疾患による特殊性から、時として利用者ご本人の同意を得ることが困難な状況がみられます。このような時、入院中からの関わりが有効となる場合が多く、退院前にご自宅へ訪問し、担当者との信頼関係を築き上げることが必要となります。今年度の目標では、「退院前訪問の充実」を第1に掲げ、入院時期からの取り組みを重視していく予定です。

また、訪問看護を地域別に見ると、当病院のある港南区が約3割、周辺の南区、戸塚区、磯子区が合せて約3割、その他の横浜市内各区と川崎・鎌倉・逗子・茅ヶ崎・藤沢の各市が合せて約4割となっています。

当病院には、訪問看護専用車が2台ありますが、広範な地域を担当するにはまだまだ十分な環境とは言えません。私たちは、これからも地域関係者と連携し、効果的な訪問看護を行っていきたいと思いますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

H18年4月  
地域別訪問件数



デイ・ケアがリ・ニューアルしました。

「楽しくて、仲良くなれて、役に立ち、ホッとできるデイ・ケア」

平成18年5月からデイ・ケア担当のスタッフが増員しました。今までよりお待たせすることなく、患者さんを受け入れることができるようになりました。そこで、デイケアの活動の一部についてお知らせします。

- \* **楽しめるプログラム** : カラオケ・音楽鑑賞などのクラブ活動やバスハイク、1日小旅行などがあり、仲間との交流を深めることができます。
- \* **役に立つプログラム** : 「病気や薬の講座」、「仕事準備の講座」、「就労の模擬訓練」、「料理教室」などを行っています。人付き合いが苦手な方には「生活技能訓練 (SST)」もを行っています。
- \* **安心して生活するために** : 患者さんの個別相談やご家族の相談をお受けするとともに、家庭訪問や職場訪問を行っています。また、家族会も開催します。

見学は、いつでもお気軽にできますので連絡ください。

(045-822-0241 内線 420・453)

入所は、主治医を通して申し込んでください。退院が決定した場合は、入院中からの利用も可能です。月曜から金曜まで参加できますが、1日からでもOKです。各種健康保険や自立支援医療の利用ができます。

・親身になってくれる優しいスタッフ（作業療法士、精神保健福祉士、心理士、看護師、医師）の連携した支援により、病気とうまく付き合い、長期間地域で楽しく暮らせるようがんばりましょう。



SSTでは、地域生活に役立つコミュニケーションスキルの練習をしています。これがよい効果を生むためには、患者さんに関わるご家族や地域の福祉関係職員がSSTとはどういうものかを認識していることが重要です。去る3月3日、SSTの院外普及を目的として、ウィリング上大岡にて『自立支援懇親会』を開催しました。島田医師の講演（「最近の精神科薬物療法について」）の後、吉祥寺病院河岸看護師長より「日常生活に取り入れるSST」と題した講演を行いました。SSTにて症状が劇的に改善した症例が提示され、SSTの可能性を改めて感じました。今回、ご家族、ボランティア、ピア活動の方も含め、地域の福祉関係施設の職員など50名が集まり、有意義な時間を過しました。患者さんが、地域一般の人々に対してもスキルが生かせるよう（これを「般化する」と言います。）、我々職員も一層の精進をしたいと思えます。



## Information

## お知らせ

## Information

### ★せりがや病院「看護の日」

平成18年度の「看護の日」記念行事として、次のとおり「薬物・アルコール依存症と看護を知る」集いを開催します。

- 日 時：平成18年7月12日(水) 13:30～16:00
- 場 所：せりがや病院作業棟及び正面玄関
- 対象者：近隣の横浜市立中学校3校の生徒及び教職員
- 内 容：病院及び看護局紹介、キャラバンカー・パネルコーナーの見学、アルコールパッチテストなど

### ★ぬくもり喫茶「ぽかぽか」オープン

芹香病院では、患者さんの憩いと待ち時間の有効活用を図るため、港南区内の精神障害者小規模授産施設「ぬくもりの家」のご協力をいただき、本年1月から月1回、昼の時間帯でぬくもり喫茶「ぽかぽか」を外来待合室内にオープンしています。

当日は、ロールサンドや中華おこわ、焼きそば、さらにはクッキーなどの食べ物やおしるこ、コーヒーなどを販売しています。また、購入された方は待合室などでもお召し上がりいただいています。

「ぽかぽか」は、患者さんには好評であり、用意した飲食物は毎回、ほぼ売切りの状態となっています。このため、平成18年度からはオープン回数を月2回に増やしました。当病院として、今後とも患者さんの憩いの場の充実に努めていきたいと考えておりますので、皆さんのますますのご利用をお待ちしています。

### ★職員募集（非常勤・臨時）

当センターでは、次の職種の方を募集しています。ご希望の方は、センター総務課までお問い合わせください。

- |         |                                 |       |                        |
|---------|---------------------------------|-------|------------------------|
| 【医師】    | 勤 務 先：「芹香病院」                    | 【看護師】 | 勤 務 先：「芹香病院」又は「せりがや病院」 |
|         | 業務内容：救急患者さんなどの診療<br>通院患者さんの救急対応 |       | 業務内容：病棟勤務（夜勤あり）        |
| 【作業療法士】 | 勤 務 先：「せりがや病院」                  | 【薬剤師】 | 勤 務 先：「芹香病院」           |
|         | 業務内容：依存症患者さんの作業療法               |       | 業務内容：入院・外来患者さんの調剤      |

※待遇は、いずれの職種も県規定により経験年数に応じ処遇

《問合せ先》 〒233-0006 横浜市港南区芹が谷2-5-1 神奈川県立精神医療センター総務局総務課  
TEL 045-822-0241(代) FAX 045-825-3852

## 受診案内

### 芹 香 病 院

- 初 診：受付時間は月曜日～金曜日の午前8時30分～午前11時
- 再 診：時間予約制（予約変更の場合は、事前に外来まで連絡を）
- 休診日：日曜日・祝祭日・年末年始
- 老人クリニック：毎週水曜日の午後
- 救急外来：月・水・金曜日は午後10時まで、火・木・土・日曜日は24時間対応

### せりがや病院(依存症専門医療)

- 初 診：時間予約制で受付時間は月曜日～金曜日の午前8時30分～午前11時
- 再 診：時間予約制で受付時間は月曜日～土曜日の午前8時30分～午前11時30分
- 休診日：日曜日・祝祭日・年末年始